

第8分科会      テーマ 小学校 父親とPTA1      司会 PTA連絡協議会理事(柏井小)

広いテーマがあり各単位のレポートをもとにまず、自己紹介から各学校の現状の報告から父親の参加型の行事等の発表をしてもらうことからお話を進めました。

①新井小 学校行事は主に母親によるものであったが最近では少しずつ父親の姿を見るようになった。現在「見まもり隊」として登下校時に毎月10箇所当番制にて防犯、あいさつの見守る活動を実施している。

②市川小 平成17年度に「おやじクラブ」を発足し会員は父親だけでなくOB、地域の方々母親の参加もOKとし、子ども達のためのイベント、学校行事の支援を実施する中、地域の活動に参加することから自分たちも楽しめることを基本として活動している。

③大柏小 日常は母親が主に交通安全、防犯、自治会との協力等活動をしているが、父親の方々も関心をもってくれる方は情報交換から積極的な活動をしている。

④大洲小 父親の方々の平日昼間の活動に参加するのは難しいが、お休みの日、運動会や学校周りの掃除等への参加は積極的にされている。

⑤大野小 父親の方々の平日参加は難しいが、女性の方でもフルタイムで働く方が多くなる一方これからどうするべきか、他校の皆様と情報交換をしながら対応したいと思う。

⑥大和田小 25周年を迎え「おやじの会」の発足を考えている。転勤が多い地域であるが父親の関心も多く、父親とふれあうイベントをすることにより、家族以外の方々との交流を企画していきたい

⑦鬼高小 活動は母親の参加が大部分だが、土日の行事に関しては、父親の姿も多いため行事以外にも参加できる組織があると良いと思われる。教員から積極的に働きかける必要があると思われる。

⑧柏井小 農家の家庭も多く、授業参観等は父親の参加も増えている。父親の楽しめるコミュニティサークルはあっても良いと思う。

⑨北方小 PTA役員活動等は、男性の参加は低い、PTA活動のやりがいや、やる気を起こさせれば時間的制約を越えて楽しみを共感できるのではないのでしょうか。単位部活動の指導者役のお父さんたちとも一緒になって皆さんとのコミュニティづくりから考えることを周知していきたい。

⑩行徳小 2年続けてゴールデンウィーク後に校内大清掃大会を行い参加者も30～40人と増えている「のりすき」や「もちつき」行徳まつりの「みこしかつぎ」等、活発な参加を進めている。

「行徳っ子見守り隊」として地域の年配の方々が活動している。現役の父親の子育てとしての参加を望んでいる。そこから感動を広げていきたい。

⑪国府台小 「おやじの会」を活動していたが現在は小休止状態「親子清掃」等、校外での父親とのふれあいはあるが、父親のPTA活動等への参加意志はある一方、現状は難しい。

⑫国分小 学級参観への父親参加は少ないが、運動会には父親の姿は増えている「U字溝清掃」等父親参加の行事を積極的に行えば、コミュニティづくりをしていけるのでは

⑬幸小 3年前から「おやじの会」を活動している。PTA活動は「子ども達のため＝自分のため」として残るものであるということを親同士の情報交換を設けることで活発化していけると思う。

⑭塩浜小 お手伝いはできても役員等はできないという父親は多い。過去に地域の活発な活動をしてきたこともあり、父親同士の交流は大切であり、それを引き継いでいくことが大切だと思います。

⑮塩焼小 土曜参観の後にU字溝清掃を実施して母親は、校内担当をし100人以上集まっています。平日の父親の参加は無理と思われ、行政の配慮も必要であり父親と先生方が楽しめて活動していくことも考えるべきかと思われる。

⑯信篤小 学外活動には、父親の姿は見られるがPTA活動の参加につなげていない。

本部の務め等、会社務めの父親への協力も行ってみたい。

⑰菅野小 「おやじの会」をもとに、菅野フェスタへの積極的な参加があり、ボート・自転車の乗り方田植え、ゲーム等イベント活動を行っていて、授業参観も父親の姿が増えている。

以上のことから積極的に父親参加型の行事を行っている単位学級や地域と「おやじの会」といった会はないが父親同士の接する場を企画して相談、コミュニティづくりをしていきたいという面がみてとれました。

どの地域や学校でも子ども達のための交通安全、防犯活動、こども会といった地域の活動への積極的な父親の参加は、多く子ども達との交流やお休みの日には、積極的にお父さん方も協力してくださる姿を感じることができます。授業参観の場においても以前に比べれば父親の参加が多くなってきている

市川市PTA連絡協議会

点もあり、少しずつ学校や子ども達への関心を持っている方が多いのではないのでしょうか。

このような現状を基に「父親の参加率を高めるためには」どのようなことが大切かをフリートークにて話してみました。

○PTA役員という務めに対して、個々が助け合いながら活動することであり、サラリーマンや会社勤めだからできないということは考えなくても良いと思う。

○母親と父親の活動の接点を見つけてそれぞれが参加できることを見いだして、喜び合えることが大切である。

○行政による配慮により土曜日にPTA活動や学校行事を積極的に進めてみる事で参加できる環境をつくる。

○会社勤めの方でも地元の方でも相手の立場や助け合う気持ちをもって広く継続していくことを主に考える意識を持ち続けていくことが大切

○学校からの行事案内等、母親で止めてしまわず家族間にてお父さんの参加について、家族で会議して考えてみる。

○先生方からの父親の皆さんへの行事参加を積極的にアプローチしてみる。

○父親同士、接点が見い出せるような行事企画をして実施することから参加し感動を共感できるような場面をつくること。

○子供からお父さんに「役員として学校へ出てよ！！」と言われるとそれが父親の心をゆさぶりきっかけとなり、はずかしくても必ずうれしいはず。子ども達の素直な気持ち声を聞くことで参加してみようかという気持ちになる。

等のような意見が出ました。第8会場の皆さんとても熱心な方ばかりでお時間の足りないくらいにお話もつきなくとても良い話し合いができました。

本研究大会を通じて皆さん同様に感じたことは、私たちはこの日々の中で、その存在を意識し、その出会いの幸せな気持ちをしっかり受け止めることでその中から何とも代えがたい喜びが明日の日常や個々のご家族の団らんに繋がっていくことを父親である男の方々は本当はちゃんと知っているはずですよね！！おとうさん！！